



〓 オススメ 〓

# 教員から 学生への 推薦図書

Recommend  
books

学生みなさんに読んでほしい一冊を、大学の蔵書の中から紹介していただきました。学生時代に出会った本や、息抜きに読める本などさまざま。ぜひ図書館で探してみてもはいかがでしょうか。

01

## 法とは何か

渡辺 洋三(著)  
(岩波書店)1979

名図文庫 080:1952:c100  
豊図書庫 #081.6:2-2:100 ほか

## 法を学ぶ

渡辺 洋三(著)  
(岩波書店)1986

名図文庫 080:1952:c338  
豊図書庫 #081.6:2-2:338 ほか

私が法学の勉強を志したきっかけは、高校生の時に会った渡辺 洋三著『法とは何か』(岩波新書)でした。大学2年時、幸運にもその洋三先生のゼミに入り、その時ゼミで読んだのが、その姉妹編『法を学ぶ』(岩波新書)でした。

「法も所詮は生きものである。人間が法を作り、且つそれを動かしてゆく。法の心は結局において人間の心である。人間の心のわからない者には法の心がわかるはずもない。法律学くらい最も人間くさい学問はないのである。」法学の本質を説いた『法を学ぶ』冒頭のこの一節には、今でも深い感銘を覚えます。

ところで、ゼミ生の塚田薫君(2013年度4年生)と一緒に手がけた『日本国憲法を口語訳してみたら』が大きな話題になりました。この本の若者言葉はとても読みやすいと思うので、憲法がスキな人もキラいな人も、渡辺 洋三の名著2冊と併せ、ぜひ手に取っていただければうれしいです。

名古屋校舎

長峯 信彦  
法学部

02

## 読書について

ショウベン ハウエル(著)  
(岩波書店)1960  
豊図書庫 #080:1A:309

『本を読む本』  
名図文庫 019:A16  
豊図文庫 019:A16 ほか

大学院修士課程の頃(1970年代前半)、ショウベンハウエル『読書について』(岩波文庫で★一つ)に出会い、「読書は、他人にものを考えてもらうことである」という記述にショックを受けた。本書には「思索」「著作と文体」という小文も収録され、読書と学習を同一視する考え方に対して、自律的に思索することの大切さが対置されている。本書は小品ではあるが、深い含蓄に富んだ箴言が散りばめられており、還暦を過ぎた今になって読み返しても、最初に読んだ時の新鮮な感動が蘇ってくる。精密な読書をするための技術書としては、M.J.アドラー・C.V.ドレーン『本を読む本』(講談社学術文庫)が、完璧なガイドブックである。

03

## ヴェニス商人

シェイクスピア(著)  
(研究社)2005

名図開架 932:Sh12:3  
豊図開架 932:Sh12:3  
(外)車図開架 932:Sh12:3

今から約500年前にシェイクスピアが書いた戯曲(舞台の脚本)である。貿易街ヴェニスに住む商人のアントーニオは親友の結婚のためにユダヤ人の金貸しシャイロックに大金を借りに行く。シャイロックはアントーニオに「もし期日までに借金を返せないのなら、お前の腹の肉1ポンドを借金の肩代わりとする」という条件で金を貸す。余裕で借金を返せると思っていたアントーニオであるが彼の事業が失敗したことから借金が返せなくなり裁判に。借金の肩に腹の肉1ポンドが妥当なのか?裁判官の判決はいかに!?商人、裁判が出てくるが経営学部、経済学部、法学部の学生向けの作品かというところではない。誰が読んでも楽しめるエンターテインメント。友人同士で役を決めて演じあいながら読むのも楽しいかもしれない。

04

## 渋江抽斎

森 鷗外(著)  
(岩波書店)1999

名図文庫 913.6:Mo45  
豊図文庫 913.6:Sh21

私にとって森鷗外の小説は至ってつまらない。一方、いわゆる史伝モノはむやみに楽しい。小説では設定や筋回しが見え透いて興ざめだが、史伝ではそんな創作部分の負荷がないためか、素直に文章が綴られる。各人の事歴が、本調べや聞き取りやりに依って明らかになるごとに、淡々と記される。しかもそこには喜びが滲む。俗っぽく言えば探偵趣味、大げさに言えば学術的探求心を満たす喜びである。さらにその魅力は、日本語を記す際に否応なく付き合わされる文章の表情作りに冷淡なところにある。漢文訓読から文語文につながる明快さと力強さだ。一読を勧める。なお『渋江抽斎』などの鷗外の作品は、青空文庫で無料で読むことができる。  
(<http://www.aozora.gr.jp/cards/000129/card2058.html>)

名古屋校舎

森 久男  
経済学部



名古屋校舎

太田 幸治  
経営学部



名古屋校舎

木島 史雄  
現代中国学部

05



## 東洲しゃらくさし

松井 今朝子 (著)  
(幻冬舎) 2011

名図開架 913.6:Ma77

松井今朝子は京都祇園の生まれ。大卒後、松竹での演劇制作を経て作家業へ。歌舞伎や江戸文化に造詣が深く、『仲蔵狂乱』『吉原手引草』など話題作も多数。本作品はストーリーの芯に、江戸末期に大首絵で一世を風靡した謎の絵師・東洲斎写楽を据えるが、その出自や人物像に迫る数多の小説とは趣を異にする。写楽に擬せられた主人公・彦三と芝居作者・並木五兵衛の上方者、有名書肆・蔦屋重三郎とその周縁の江戸者、という東西の視点から、大坂と江戸の芝居文化の様々が、手に取るように分かりやすく描写され、さらに五兵衛の述懐「嘘のかたまり真の情け……分きていわれぬ世の中じゃ」よろしく、人の心の有り様をも小気味よく描写する。江戸芝居文化の気軽な手引書にして、少しホロリとさせられる芸道小説である。

名古屋校舎

塩山 正純

国際コミュニケーション学部



06



## 統計でウソをつく法 数式を使わない統計学入門

ダレル ハフ (著)  
(講談社) 1968

名図開架 350.4:H98  
豊図開架 350.4:H98  
(外)名図書庫 350.4:H98

「数学弱いから文系にきた」「数字きらいだから文学部」のようなことを時々聞きます。そういう人に限って「97%の人が満足」とか「燃費 31.2km/ℓ」とかいう宣伝文句にだまされているのではないでしょう。数字を無視すればいいのに。

数字を使っただすにはいくつかの手口があります。数字の意味を誤解させる（データの根拠をごまかす）、基礎になるモデルの誤用（相関関係と因果関係をすり替える）、視覚表示による誇張（グラフの拡大）など。この本には、特に文系の人を知っておいでいただきたい手口が書かれています。原著は1954年に書かれ、この翻訳は1968年から出版されている、この分野の「古典」です。最近統計学に関する読み物はやはり、「統計学が最強の学問である（西内啓）」「ヤバい統計学（カイザー・ファング）」など、新しいものも多いので、わざわざこの古いものを読まなくても良いと思いますが、数字について知って、だまされないように、自らも誤用しないようになっていただければと思います。

豊橋校舎

山本 昭

文学部



07



## ガリバー旅行記

スウィフト (著)  
(小学館) 1997

豊橋開架 908:Sh95:3

多くの人が子供のころに、小人や巨人の国をとおして夢を広げた本です。私はこの本を大学時代に英文学史の授業の一環として本格的に中野好夫の翻訳で読みました。私にとって『ガリバー旅行記』の中心は、第四篇のフウイヌム国渡航記です。ここには日本人の多くがもつ『ガリバー旅行記』のイメージとはまったく異なった世界が出現します。18世紀イギリス社会を風刺した世界です。それともかなりどぎつい社会や人間批判の書で、読み進むのが嫌になるほど醜悪な人間の姿が描かれています。私はここに英文学の一つの源流をみました。そしていま、私はこの18世紀文学界を牛耳っていたジョンソン博士の研究をしています。

豊橋校舎

早川 勇

地域政策学部



08



## 死の島

福永 武彦 (著)  
(新潮社) 1988

豊図書庫 918.6:F79:10  
918.6:F79:11

(写真は文庫版)

【福永武彦全集】

昨年に続き、池澤夏樹の父・福永武彦(1917～79)が最後に書き上げた長編小説を推薦します。対照的なダブルヒロインに惹かれる文学青年がどちらを選ぶか？ というプロットの背後に、広島原爆の災禍と、日常がさりげなく続くその後の世界でも、ひとはいつでも壊れ得るのだというテーマが次第に浮かび上がってきます。結末が複数あり、いずれも悲劇である点で「マルチバッドエンディング」の「鬱ゲー」の先駆でもあります。伊藤計劃『ハーモニー』やアニメ『まどかマギカ』などに惹かれた方にはとくにお薦めします。昨年、講談社文芸文庫より新版が出て、入手しやすくなりましたが、かつて福永自身がムック版を用いて自装した新潮文庫版を、ここには掲げておきます。

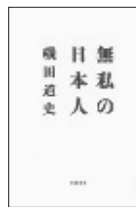
豊橋校舎

安 智史

短期大学部



09



## 無私の日本人

磯田 道史 (著)  
(文藝春秋) 2012

豊図書庫 281.04:I85

本書はタイトルのとおり、名もなき庶民のために生きた三人「穀田屋十三郎」、「中根東里」、「大田垣蓮月」の史伝である。9年前に「武士の家計簿」を著し、映画化された話題になった磯田道史氏の手によるものであり、単なる史実というだけでなく、随所に江戸時代の政治システム、庶民の道德観の説明が織り交ぜられている点も面白い。しかし、なんといっても著書自身の信念ないし哲学が読者によく伝わってくる。あとがきにもあるように、著者は、「ほんとに大きな人間」というのは、世間的に偉くならずとも金を儲けずとも、ほんの少しでもいい、濁ったものを清らかなほうにかえる浄化の力を宿せた人である。この国の歴史のなかで、そういう大きな人間を目撃した」と述べている。

最初に登場する「穀田屋十三郎」は、貧困にあえぐ集落の人々を救おうと、1000両の金を仲間と工面し、これを藩に貸付けて、その利子で民を潤そうと計画した。特筆すべきは、彼らの子孫にそのような偉業を成し遂げた事実を吹聴しないよう遺言を残したという。絶対的な身分社会であった江戸時代に、このように大きな事業を成し遂げた知恵と勇氣には驚かされる。無私の日本人という以上に、ほんとうの「正義」、「誠意」、「真心」とは何か、強く考えさせられる一冊である。

車道校舎

小林 俊明

法科大学院



10



## 共産党宣言

マルクス エンゲルス (著)  
(岩波書店) 1971

名図文庫 309.3:Ma59

大学生となり自分の見方を変えた本は、マルクス・エンゲルスの『共産党宣言』(岩波文庫)でした。唯物論や弁証法等の認識論やその論理に魅かれました。その後、マルクス主義はソ連の崩壊とともに色褪せた世界観となり、隅に追いやられましたが、最近では格差問題が広がる中で復権しつつあるようです。

ソ連建国はマルクス主義の壮大な実験となりましたが、その結果は皆さんご存知のことです。しかし、観念のウイルスとなったマルクス主義は絶滅せず種の保存に成功したようです。学生の皆さんには、物の見方や考え方に触れた書物を読んでほしいと思います。

他人から知識を吸収する時間に対して、本から多様な知識を得るための時間は十分あります。是非、多くの本を手にとってください。

車道校舎

林 隆一

会計大学院

